

用語集

○ **FTTH (サービス)**

Fiber to the home の略称で、光回線を利用した家庭用の通信サービスを指す。これまで、一般の電話回線で提供していたデータ通信サービスを光ケーブルを利用することで、より大容量の通信環境を提供することができる。

○ **ADSL**

Asymmetric Digital Subscriber Line の略称。

一般の電話回線を利用して、データ通信を可能とする技術。一つの物理的なケーブル上で音声（アナログ）情報とデータ通信を同時に行える。

○ **リーチ DSL**

ADSL より低い周波数帯を利用しているため、ADSL よりも長い距離の通信が可能となり、電話交換局から離れた場所で ADSL ではサービスが提供できない場合などに利用されることが多い。

○ **CATV/ケーブルインターネット**

一般の地上波テレビ（VHF、UHF 等）放送を有線（光ケーブル/同軸ケーブル）で提供するサービス。現在は、同技術の中にデータ通信、電話通信も統合したサービスも提供している。なお、データ通信においてはインターネット接続サービスも提供している。

○ **FWA**

Fixed Wireless Access の略。

準ミリ波帯・ミリ波帯（22GHz 帯、26GHz 帯又は 38GHz 帯）を使用する新たな無線アクセスシステムで、電気事業者間と利用者（企業、家庭等）間の無線接続を行い高速で大容量のデータ通信を可能にする。この技術の利用場面は、地理的な条件として有線のネットワーク整備が困難なところに利用されることが多い。

○ **WiMAX**

無線 LAN 技術の一部で、IEEE802.16a（世界標準規格）で規格化されており、電波周波数帯に 2GHz～11GHz を使用する。

当該技術ではある程度見通しの聞かない場所でも 1 台のアンテナから半径 50km 範囲内で最大 70Mbps のデータ通信が可能である。

利用場面としては、FWA 同様地理的条件で有線のネットワークを敷設することが困難な

場所にブロードバンドのサービスを提供するなど利用されている。

昨今、ブロードバンドの無線サービスではこの技術を利用するところも多くなっており、ワイアレスメッシュという複数のアンテナ局を整備し、ブロードバンドの面的なサービスを展開している地域もある。

○ アナログ／ISDN回線

電話回線に利用される技術で一般の電話回線（音声通信）にはこれまでアナログ信号で通信を行っていた。ISDNは電話通信をデジタル信号に変換し一つの通信ケーブル（メタル）上に複数のチャンネルを多重化させることで効率的な電話利用が出来るようになった。

代表的なサービスはNTTがこの技術を利用してINS64という回線交換技術を使い電話サービスと同時にデータ通信サービスも提供するようになった。

○ LAN

LANとはLocal Area Networkの略で、パソコンなどのコンピュータ間でデータ通信を行えるようにした技術である。現在では、電話回線やブロードバンド回線を利用してより広域のデータ通信が行えるようになった。インターネット通信はこの通信ネットワーク上で実現されている。

○ 遠隔医療

遠隔医療とは、インターネットなどのデータ通信サービスを利用して、医師と患者が離れた場所で、パソコンなどの画面でリアルタイムに会話をしながら医療サービスを受けられる仕組みである。

遠隔医療のメリットは、地理的・地的事情により病院や医師数が少ない場所で効果を発揮する。また、高齢化や身体的事情をもって自由に行動できない患者などにも有効な医療手段となる。

○ インターネットショッピング（買い物）

インターネットショッピングは、インターネットに接続したパソコンやテレビでインターネット上に公開するお店の商品の購入ができる。また、商品代金の支払も金融機関とインターネット上でオンライン決済する仕組みを利用することで、家庭内で気軽に買い物をすることができる。

インターネットショッピングができるようになり、これまでの商業・流通の概念が大きく変わってきている。

○ 電子政府

「電子政府」という用語自体、平成11年に政府の行政事務電子効率化及び国民へネットワ

ークを利用した行政サービス提供を実現することを政府構想として提唱したのが始まりとなり、現在では計画も着実に実現され、地方公共団体まで含め多くが業務効率化やインターネット行政サービスを実現している。

○ バックボーン

この報告書でいうバックボーンとは、情報通信のバックボーンのことを言い情報通信サービスを提供する設備上の基幹になる部分を指している。ネットワークは各家庭や事務所など利用者まで整備するが、そのネットワークを提供するための大容量の幹線がひとつようとなり、光ケーブルや高速無線 LAN などが利用されている。

○ キャリアサービス

キャリアとは一般的に電気通信事業者のことを言い、キャリアサービスと言う場合は、キャリアが提供する電話及びデータ通信サービス全般を指している。

昨今は、マルチメディア化が進んできたことでキャリアサービスも音声、データ、動画など全てを総合的な通信サービスとして提供するようになってきた。

代表的なサービスには、光回線で電話（IP 電話を含む）サービス提供、インターネット接続サービス、動画配信サービスなどがある。

○ ダークファイバー

ダークファイバーとは既に敷設している（主に国や電力会社及び電気通信事業者）光ケーブルで使用していないケーブルを「ダークファイバー」という通称で呼んでいる。

これらのケーブルは数十から数百という単位で敷設されているので、この中から本数単位で貸与・貸借して事業者サービスへ利用するケースが多くなってきている。

○ 衛星通信回線

衛星通信回線は、上空数万 km の衛星を使い、地上局（発信局）から地上の受信局間でデータ通信を行う回線サービスとして利用されている。

この回線サービスは大容量のデータを 1 対 N でやり取りすることが可能で、かつ上空から一様にデータを配信することができるので、地理的な条件に左右されない。また、リアルタイム性にも優れており、データ通信手段としては利用場面においては有効な技術である。

○ ランニングコスト

ランニングコストとは、イニシャルコストに対して使われる用語で、イニシャルコストが設備やサービス基盤を整備するに際し必要となる費用であり、ランニングコストとは、整備した設備の保守・運用に係る経費を言う。また、投資した設備を利用したサービスを

事業として運営する場合、その経費（人件費等）まで含めてランニングコストとして考えることもある。

○ **アウトソーシング**

アウトソーシングとは一般的な用語で、業務を外注することを指す。

外注する業務には多種・多様あるが、本調査報告書内で利用する場合は、通信事業サービスやインターネット接続サービスを外部へ委託することを意味する。

○ **Gigabit イーサネット**

Gigabit イーサネットは、IEEE で規格化された高速通信技術で、1 秒間 1 ギガビット以上のデータ通信を行える。最近では 10Gigabit/秒の高速通信が出来る標準規格まで登場しており、建屋内の超高速基幹 LAN として利用が高まってきている。

○ **コンテンツ**

一般に、インターネット上の WEB（ウェブ）サイトで提供される情報をコンテンツとして総称している。

例えば、画像データ、動画・音声データを有償・無償で配布するコンテンツ・ダウンロード・サービスなども多い。